

## 作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 海野洋一郎

発表者： 堀米美紀

(事業所) 生活介護事業所ループ歩

(事業所) お好み焼きこなこな

役 職： 管理者

役 職： 施設長

### 【支援・活動事例の概要】

目標・目的	就労における多様性をどのように利用者へ提供していくか、という課題を通して、利用者・職員が楽しく安定して働くことのできる現場づくりの実現を「現場力」というキーワードを用いて考察する。
計画・手段	一昨年に行ったアンケート調査の内容を踏まえて、静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 松平千佳准教授をお招きし、「職員に求められる現場力とは」というテーマで研修会を実施。その研修会で得られた知識・情報をもとに、部会内で課題整理を行う
内容・経過	①現場力の意味 人それぞれでありながら、ハードルは高い ②現場力を阻害するもの 自身の劣等の意識が、環境によって大きく作用の方向性が変わる ③自己覚知・自己開示 より良い環境にするために、自分を見つめ自分を知り、表出すること
結果・課題	結果 自分を大切にすることで相手を大切に思える。その相互作用が現場の充足感になり利用者・職員が楽しく安定して働くことの実現につながる。 課題 「働く」ことの本質と働きやすい環境を作り上げる現場力を身につけたうえで、支援者として障がいのある人の就労支援の課題取組みに目を向けていく。

### 【意見交換】

Zoom のチャット機能を活用し、分科会参加者にも研修会で行ったワークを体験してもらう（①現場力とは何だと思うか、②それが伸びない阻害要因は、③今の気持ちを漢字一文字で表す）現場力の概念は参加者多様ながらしっかりとした意見を持っていた一方で、その阻害要因は人間関係や雰囲気など環境によるもの、または自己の内にあるといった両側面の意見も出た。③のワークを行いながら、より良い環境づくりのために自己覚知と自己開示が重要であることを共有する。

### 【まとめ】

障害のある人の「働く」ことを支えていくために、まずは支援者たる自分自身が自身の「働く」ことをどう捉え、どう向き立っていくかが前提になくはないと考える。現場力という言葉を通して、誰しもが持ち得る劣等の意識を視覚化して自己覚知し開示していくことで、閉鎖的・攻撃的なネガティブな因子とせず、自分を理想に近づけるために鼓舞する因子になることが整理された。

自分を大切にすることができて、初めて相手のことを大切に思うことができるということは、就労支援の場面だけでなく、私たちの様々な支援現場で有効だと考える。支援者が楽しく安定して働くことで、利用者の働く環境もより良いものにつながっていくものだと考える。